世界遺産への道１６　≪地域一体で取り組みを《吉村作治講演会》≫

2010 年 04 月 15 日

サイバー大学学長でエジプト考古学者の吉村作治さんの講演会が２月 17 日、市民活動交流館（メイトム宗像）で開かれました。

「世界遺産を学ぶ～エジプトと宗像・沖ノ島から～」と題された講演会には、平日の午後にもかかわらず市内外から約２００人が来場。関心の高さがうかがえました。

沖ノ島世界遺産運動の提唱者でもある吉村さん。沖ノ島を知って宗像にかかわるようになったエピソードを含め、エジプトからヨーロッパ、インド、中国、日本などアジアへとつながる文化の流れをわかりやすく説明。スフィンクスが、エジプトから少しずつ形を変えながら日本の「こま犬」に、同じく太陽神ラーが「天照大神」になったのではないかという話に、来場者も感心した様子でした。

吉村さんは、世界遺産を目指す沖ノ島について、伝来したさまざまな文化の交流拠点として素晴らしい価値があるということを強調しました。

また、今回の講演会では、多くの市民サポーターがボランティアスタッフとして運営をサポート。会場設営や機器操作、司会や会場案内、撤収作業など、行政と一緒に取り組みました。

講演の中でも、「世界遺産登録運動は、行政主導ではなく、地域住民がふるさとの遺産に誇りを持ち、本気で取り組んでいくことが大事です」と力説した吉村さん。今後も地域の人々と一体となって、この世界遺産登録運動に取り組んでいかなければならないという思いを強くした講演会となりました。

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室　☎（６２）２６１７

エジプトと沖ノ島について熱く語る吉村さん

世界遺産への道１７　≪九州・山口近代化産業遺産群　長崎県の軍艦島≫

2010 年 05 月 15 日

九州・山口近代化産業遺産群は、非西洋化の地域で初めて幕末期に西洋技術を導入し、極めて短期間に飛躍的な近代化を遂げた過程を示す遺産として、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。県内には、その構成資産として北九州市八幡東区の官営八幡製鐵所旧本事務所や東田第一高炉跡、大牟田市の三井石炭鉱業三池炭鉱宮原坑の施設などがあります。

また、構成資産は、山口県や佐賀県、熊本県や鹿児島県、宮城県や長崎県にもありますが、今回はそのうちの１つ、長崎県端島（はしま）、通称・軍艦島を紹介します。

この島は、文化７（１８１０）年ごろに石炭が発見され、鍋島藩が細々と経営していましたが、明治 23（１８９０）年に三菱が、鍋島藩から 10 万円（現在の３億～５億円）で島と採掘権を買収し、三菱合資会社として本格的に海底炭鉱の操業を開始しました。

その後、島の周囲は石炭の廃土で埋め立てられ、波よけの高い塀で囲まれます。その中には、鉱員社宅として大正５（１９１６）年に日本で最初の鉄筋コンクリート造りの高層アパートが建てられ、その後も次々と高層アパートが建てられました。

また、学校や映画館、パチンコ店、神社、美容室などもあり、島の中で何でもそろう環境となっていました。最盛期には、周囲１・２キロの島に約５３００人が生活。これは、東京の人口密度の９倍にもなります。

しかし、エネルギー革命で石炭から石油に代わり石炭の需要がなくなったため、昭和 49（１９７４）年１月 15 日に端島鉱は閉山、同４月 20 日に無人島となりました。

それから 35 年。今は観光地として上陸できるようになりましたが、今も崩落し続けている建物群を今後いかに保存していくかが大きな課題となっています。

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室　☎（６２）２６１７

大正５年に建てられたアパート

36 年前に無人島となった軍艦島

世界遺産への道１８　≪大飛島洲(おおびします)の南遺跡（岡山県）との比較≫

2010 年 06 月 15 日

沖ノ島では国家的な祭祀（さいし）があり、奉献品として使われていた約８万点もの資料が国宝に指定されています。

このように、古代の祭祀が沖ノ島以外の島でもあったのでしょうか。実は、国内では、沖ノ島ほど祭祀の規模は大きくありませんが、島での祭祀遺跡がいくつか確認されています。その１つが、今回紹介する大飛島洲の南遺跡です。

この大飛島は、岡山県笠岡市の瀬戸内海に浮かぶ飛島列島の中の１つで、笠岡港から船で約 45 分、四国と本州のほぼ中間に位置しています。大飛島洲の南遺跡は昭和 37（１９６２）年９月、飛島中学校の校庭に鉄棒を設置しようとして地面を掘った穴から、偶然にも銅鏡や銅鈴、銅銭、土器類などが発見され、その後の発掘調査で、古代の祭祀が確認されました。

出土した資料は全部で３０８点。すべて国の重要文化財に指定されています。出土品の主な内訳は、土師器や須恵器 95 点、奈良三彩小壷 22 点、銅鏡（奈良時代から平安時代の鏡）５面、銅鈴多数、銅銭（和銅開珎から延喜通宝）35 枚です。

これらの出土遺物から大飛島は、奈良時代から平安時代の祭祀遺跡とされています。土器類が多いことや奈良三彩小壷が出土していることなどから沖ノ島と共通する点もありますが、逆に大きく異なるところもあります。それは、大飛島の方が銅銭や銅鈴の出土量が圧倒的に多いこと、滑石製模造品や器台が１点も認められないことです。

また、沖ノ島では、４世紀（古墳時代前期）から国家的な祭祀が始まって約５００年間続いていることから、祭祀の期間が大飛島に比べて長いという違いがあります。

大飛島でも国家的な祭祀がありましたが、一時的なものでした。沖ノ島の祭祀は、自然に対する信仰から社殿祭祀に変わり、現代に航海安全（交通安全）の信仰が引き継がれているところに価値が認められます。

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室　☎（６２）２６１７

大飛島洲の南遺跡

世界遺産への道１９　≪戦没者慰霊と安全・平和を祈願≫

2010 年 07 月 15 日

沖津宮現地大祭は、日露戦争の戦没者慰霊と、これからの安全と平和を祈るために毎年５月 27 日に開かれる神事です。１年のうちでこの日だけ、一般男性のみが沖ノ島に上陸して参拝することが許されています。

明治 38（１９０５）年５月 27 日午前５時５分に火ぶたを切った日本海海戦。戦争では、ロシア側が死者４８３０人、捕虜６１０６人、日本側が死者１１７人、負傷者５８３人の犠牲者を出しました。

当時、沖ノ島の山頂近くにある大きな木に登って眼下に展開する日本海海戦を目撃していたのが、大島在住の故佐藤市五郎氏でした。司馬遼太郎著の「坂の上の雲」に登場する１場面ですが、宗像大社の神宝館には、その時に記された社務日記が残されています。

今年の現地大祭には、全国各地から約２４０人が参加。沖ノ島へ「しおかぜ」で向かいましたが、残念ながら悪天候のため沖ノ島へ渡ることができず、大島の沖津宮遙拝所で参拝することになりました。

沖ノ島近海で起こった日本の近代史に深く刻まれる歴史と、世界遺産としての沖ノ島が持つ価値など、参加者の沖ノ島に対する信仰の深さを実感しました。

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室　☎（６２）２６１７

沖ノ島へ向かう「しおかぜ」

沖津宮遥拝所で参拝する参加者

世界遺産への道２０　≪郷土の遺産を体感　世界遺産バス見学講座≫

2010 年 08 月 15 日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」がユネスコの世界遺産暫定リストに記載されて１年以上が経過しました。少しずつですが、市民のみなさんにも世界遺産登録活動の認知度が上がってきているという手応えを感じると同時に、まだまだ大きな盛り上がりとなっていないことも痛感しています。

そのような現状の中、一人でも多くの市民のみなさんに、郷土の遺産や世界遺産登録活動を知ってもらおうと、ルックルック講座を利用した「バス見学講座」を本年度から実施しています。

この講座は、世界遺産の理念や今後の取り組みの説明と、構成資産の見学の二部構成で開催しています。もちろん、沖ノ島へ渡ることはできませんが、説明を聴きながら宗像大社や古墳を実際に見ることで、世界遺産登録活動に対する市民のみなさんの関心が高まることを願っています。

既に、地域の老人クラブなど各種団体のみなさんが受講し、参加者からは、「長年宗像に住んでいるが、このような場所があるとは知らなかった」「宗像についてもっと知りたい」などの感想をもらっています。

今後もこの講座を継続していきます。１グループ 15～22 人で申し込みしてください。参加費は無料ですが、コースによっては入場料や渡船料が必要です。詳しくは、世界遺産登録推進室まで問い合わせてください。

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室　☎（６２）２６１７

新原・奴山古墳群の説明を聴く参加者

【世界遺産市民組織参加団体募集】

市内各種団体が協働で世界遺産登録活動に取り組みながら、まちづくりに貢献する「世界遺産市民組織」を立ち上げます。

興味がある団体のみなさんは、（１）団体名（２）代表名（３）電話番号を明記して、世界遺産市民組織準備委員会（アクシス玄海内）へファックス＝（62）２６１７で問い合わせてください。後日、折り返し連絡をします。

世界遺産への道２１　≪鞆(とも)の浦から学ぶ≫

2010 年 09 月 15 日

広島県福山市の鞆の浦を舞台に、海を埋め立ててバイパスを通すことに反対するグループが、県や市を相手に起こした裁判。昨年 10 月、広島地裁は埋め立て差し止めの判断を下し、埋め立て反対派に軍配が上がりました。

鞆の浦は、江戸時代から明治期にかけての漁港や集落の町並みがそのままの状態で保存され、一部にはホテルや病院など近代的な建物があるものの、実際に町並みを歩くとその時代にタイムスリップしたかのような不思議な感覚に陥ります。ここまで当時の景観が残っていることは奇跡的と言えます。作家の宮崎駿さんは数年前、この集落を一望できる高台に部屋を借りて、「崖の上のポニョ」を創作したそうです。

しかし、実際にここで生活をしている人たちは不便を感じています。特に集落内の道路は狭く、常に車のすれ違いには気を使い、特に緊急車両がスムーズに通過することができません。実際、県や市、住民の大半も埋め立てを推進し、バイパス建設を望んでいました。それでも文化的景観は国民の財産として公益制が高いとされたのです。今後も推移を見守りたいと思います。

宗像市に置き換えて考えてみると、宗像大社辺津宮周辺や大島など、まだまだ集落景観や自然景観が保たれ、東京から来た人などは必ず「とても懐かしい景色だ」と言います。これが宗像の自慢できる点の一つであり、何にも変えがたい価値なのです。不便で生活しにくいと感じることもあると思いますが、自然が残り、空気が良く、海が美しく、おいしい玄海の幸が獲れることも、この自然環境が保たれているからこそだと思います。

世界遺産登録活動は、こうした自然保護や文化財の保護を目的に、農業や漁業を含め、生活環境の保全にもつながっていくものと考えています。

高台からみた鞆の浦

【世界遺産市民組織設立記念講演会】

世界遺産市民組織の設立を記念して講演会を開催。「宗像・沖ノ島関連遺産群」専門家会議委員長で九州歴史資料館館長の西谷正さんが、遺産の魅力や登録に向けた現状などを話します。入場無料。

●日時　9 月 26 日（日）午前 10 時 30 分開場予定

●場所　アクシス玄海

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室

講師の西谷さん

世界遺産への道２２　≪沖ノ島の自然（ほ乳類編）≫

2010 年 10 月 15 日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は現在、文化遺産での登録を目指していますが、沖ノ島の自然があるからこそ文化遺産の価値を一層高めています。

今回は、今年６月に実施した県レッドデータブック改訂版作成に伴う絶滅危惧（きぐ）種の調査と自然について紹介します。

近世以降、沖ノ島に人間以外のほ乳類として、オキノシマジネズミ（モグラに近い種類）が生息しているといわれていましたが、今回の調査では確認できませんでした。

しかし、これまでの環境調査でも存在の可能性が高いといわれながら確認されていなかったコウモリ（アブラコウモリ）が発見されました。

そこで、夕暮の活動時間に合わせ、コウモリの特性である超音波の確認をしましたが、別の種類の音波も受信できたことから、ほかの種類も生息している可能性が高いことが分かりました。

また、沖ノ島の招かざる客として、猫が目撃され、さらにはドブネズミやクマネズミが捕獲されました。

沖ノ島の南側には、小屋島という小さな岩礁があり、日本近海にしか生息しないカンムリウミスズメ（絶滅危惧種　　類・国指定天然記念物）の貴重な繁殖地となっています。しかし、ここにもネズミが侵入し、貴重な鳥の卵やひなが襲われ壊滅的な状態になっているといわれています。このように外来種の侵入は、小屋島をはじめ沖ノ島の生態系にも深刻な影響を与えています。

ネズミと猫は船を通して侵入したとも考えられています。世界遺産登録の目的は、沖ノ島の神聖性を守ること、つまり、貴重な自然形態を守ることでもあります。

今回の調査で発見されたアブラコウモリ

世界遺産への道２３　≪市民の協力と学術的調査が必須≫

2010 年 11 月 15 日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動は、着実に１歩ずつ歩んでいます。今回は、市民組織の設立と学術調査を紹介。世界遺産登録に必要な市民の力と学術的証明の両輪が動き出しています。

◆市民組織を立ち上げ

アクシス玄海で９月 26 日、市内 23 の団体が集まって「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」が発足しました。設立記念イベントでは、市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」のＰＲ隊による歌の披露や、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の専門家会議委員長で九州歴史資料館館長の西谷正さんの講演会が開かれました。

市民の会では、「保存管理」「啓発・イベント・観光」をテーマに協議しています。また、市役所内にも関係各課による世界遺産推進組織を昨年４月に発足。市民の会と同じテーマで関係課によるワーキングを結成し、協議しています。

「保存管理ワーキング」では、世界遺産登録に必須な保存管理計画を検討。各資産の周辺に緩衝地帯を設け、景観破壊を防ぐ方法を考えています。例えば、宗像大社周辺の景観を維持するための方策や沖ノ島の神聖性を維持するための方策などを協議していきます。

「啓発・イベント・観光ワーキング」では、本遺産を中心に市の魅力をさまざまな形で発信します。さらに、今後の観光受け入れ態勢の課題なども協議していきます。

今後は、市民の会と意見交換しながら、真の市民協働で世界遺産登録の推進を図り、世界遺産を生かしたまちづくりを目指していきます。

「むなかた三女神記」ＰＲ隊による舞台披露

講演する西谷さん

◆沖ノ島調査を振り返る

沖ノ島祭祀（さいし）遺跡の発掘調査は、昭和 29 年、同 33 年、同 46 年の３次に渡って実施されましたが、３次調査すべてに参加した考古学者の小田富士雄さん（福岡大学名誉教授）が９月 20 日、40 年ぶりに沖ノ島へ渡りました。

今回の渡島は、沖ノ島の世界遺産としての価値を検証し、ユネスコ世界遺産センターへ提出する推薦書に反映させる調査研究が目的。各分野の研究者らが参加しました。

前日に大島へ渡り、沖津宮遥拝所近くの民宿で事前学習。國學院大学の柳田康雄教授は、福岡県職員として第３次調査時に天然記念物の監視役で参加した当時の話をしました。

また、韓国の祭祀遺跡と比較研究する韓国人女性研究者の高慶秀（コ・ギンス）さんは、「沖ノ島は誰が見ても素晴らしい遺跡。女人禁制のため島に渡れないことは残念ですが、それを含めて文化だと思っています。周辺の遺跡を見ながら研究していきたいです」と語るなど、参加者で調査研究の意気込みなどを話し合いました。

調査当日、出発時の小雨も、沖ノ島に近づくにつれ天気が回復。「田心姫神（たごりひめのかみ）が快くお迎えくださった」。そんな気持ちになりました。

沖ノ島に到着すると「みあれ祭」の事前神事として、大島中津宮へ沖津宮の御霊（みたま）を運ぶ神迎えの神事があり、ちょうど田心姫神の御霊が、御座船に到着したところでした。

その後、全員で禊（みそぎ）をし、小田さんに当時の発掘調査を振り返りながら各遺跡の説明をしてもらいました。

沖津宮から下山する御分霊

沖津宮の御霊を御座船に乗船

禊をする参加者

●岩上祭祀遺跡

21 面もの鏡が出土した 17 号遺跡の下で話をしてもらいました。鏡は、鉄刀や鉄剣、海から持ってきたと思われる丸い小石を使って水平に保ち、表面を上にして置かれていたそうです。

調査当初、鏡は明治期に持ち込まれたのではないかとの意見もありましたが、調査を進めていくうちに、この遺跡によって、４世紀後半から沖ノ島で国家的祭祀がされていたことが結論づけられました。

17 号遺跡下での説明

●岩陰祭祀遺跡

表土の落ち葉を払っただけで、金銅製馬具や玉が出土したそうです。有名な金製指輪は、小田さんが見つけました。

７号遺跡からは、岩に向かって右の地面から鎧（よろい）の小札（こざね）盾などの武具類、中ほどに装身具類や武器類、左側からは杏葉（ぎょうよう）や雲珠（うず）などの馬具類が出土したそうです。

左側は、岩の裏に通じて８号遺跡となりますが、ここからは、有名なカットグラス碗片が出土しています。

●半岩陰・半露天祭祀遺跡

この時期の遺跡は、２つの遺跡しかありませんが、そのうち５号遺跡が有名で、20 号遺跡はあまり良くわかっていませんでした。

20 号遺跡には、14 号遺跡という番号も付いていました。最初は、Ｌ号岩の前面に土器が散布していたことから遺跡があることが分かり、14 号としましたが、岩のすぐそばに機織具の部品などが出土したため、20 号と新たに番号を付したそうです。

●露天祭祀遺跡

露天祭祀遺跡を代表する１号遺跡は、現在も土器や滑石製品を見ることのできる遺跡です。

この遺跡からは、発掘調査時もおびただしい数の遺物が出土し、深いところでは 40 センチの土器と滑石製品が埋まっていたそうです。通常、下の層に行くほど時代が古くなりますが、沖ノ島ではほぼ同時期の遺物が積もっていたということでした。

この遺跡は、「別の場所で祭祀をして、この場所にまとめて置いた」とするなどの諸説がありましたが、実際は、露天の低い部分に石を置いて祭壇状の区画を作り、そこで何回も祭祀がされたことが確認されました。

１号露天祭祀（さいし）遺跡を視察する小田さん（左端）

このように、40 年前の発掘調査の記憶をたどりながら、沖ノ島でいかにして調査が実施されていたのかを伺うことができました。沖ノ島祭祀遺跡のこれまでの調査成果に加え、遺跡の状況など図面では確認が難しかったところなどを、貴重な証言と共に再度確認できたことが大きな成果となりました。

世界遺産への道２４　≪沖ノ島の自然（は虫類、両生類、昆虫類編）≫

2010 年 12 月 15 日

前々回では、沖ノ島に生息するほ乳類について紹介しましたが、今回は、は虫類、両生類、昆虫類の調査を報告します。

は虫類の調査は、バケツにえさを置いた誘導捕獲と網採取を実施しました。誘導捕獲では、過去に確認され現在は絶滅の可能性の高いほ乳類「オキノシマジネズミ」の捕獲を試みましたが、オオミズナギドリのすさまじい夜間の活動で仕掛けが荒らされ、捕獲することができませんでした。

そこで、昼から網採取のみの調査となりました。その結果、ニホントカゲがたくさん生息していることが確認されました。また、２匹のカナヘビが目撃されましたが、カナヘビはヘビではなくトカゲの仲間で、実際にはヘビはいませんでした。沖ノ島での調査もこのことが一番の救いでした。

両生類は、これまでも確認された報告がありません。これは、近くに水がある環境がないためといわれていました。このため今回は、水が常に流れていると思われる大麻畑（おおあさばたけ）の小川で調査しました。しかし結局、今回も両生類の姿は確認できませんでした。

昆虫類は、ハエ系、カメムシ系、チョウ系の３人の専門家が、昼間に網採取、夜間にライトトラップでの採取で調査しました。

クワキヨコバイは、長崎県の対馬や大島、地島だけで確認されているため、沖ノ島にもいる可能性が高いと思われましたが、今回の調査では確認できませんでした。

それに対してケズメカ（キノコバエの仲間）は、沿海州から北海道にかけてだけ分布が認められている種ですが、なぜか遠く離れた沖ノ島で確認されました。特に朽木の周辺に数多く飛んでいる姿や、卵、サナギなども確認され、沖ノ島では普通に生息していました。

ゴマダラチョウは、これまで確認されていませんでしたが、クワノハエノキなどが一ノ岳頂上などに生え、それを好むこの種のチョウがその木に群がって数多く飛んでいるのを確認。また、アサギマダラも２匹確認されました。

昆虫は、ブナや樫の木がないため、ガの種類も少ないとの指摘もあります。また、たくさんのオオミズナギドリが地面を歩き回り、植物を踏みつけることによって、昆虫のえさとなる低層植物が育たず、それに伴って昆虫の種類も少ないということでした。

沖ノ島は、周囲４キロの比較的小さな島で、周辺 60 キロには大きな陸地もないため、外来の影響を受けずに独自の環境をつくり出しています。

ライトトラップで採取調査をする専門家

世界遺産推進会議ニュース～沖ノ島だより～

2011 年 01 月 06 日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（福岡県・宗像市・福津市）では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向けた動きやニュースを「沖ノ島だより」にて報告しています。

このたび、第２号が発行されましたので以下にてお知らせします。また、前号（第１号）もあわせてお知らせします。

・沖ノ島だより（第１号）※PDF ファイル／クリックしてください

・沖ノ島だより（第２号）※PDF ファイル／クリックしてください

世界遺産への道２５　≪神聖な島・沖ノ島を世界遺産にする目的とは≫

2011 年 01 月 15 日

世界遺産の目的は、国境を越えた価値や、貴重な自然、文化遺産を開発などの脅威から守り、次の世代に受け継ぐことです。

しかし、昨今の世界遺産は、奈良や京都、合掌造りの白川郷、日光東照宮など観光を目的とした部分が多いように感じられます。さらに屋久島では、観光客によって自然に悪影響が出ているといった本末転倒な事案も発生しています。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産となったらどうなるのでしょうか。いつでも沖ノ島へ行けるようになるわけではありません。「神宿る島」「海の正倉院」と称される沖ノ島は、神聖な場所、神社の本殿内部のようなものです。観光目的で立ち入る場所ではないのです。神聖な場所ということをいかにして伝え、守っていくのかがこの世界遺産登録の目的です。

しかし、沖ノ島だけを世界遺産に登録しようとしているわけではありません。大島や宗像本土にも世界遺産候補の資産があります。例えば、大島の沖津宮遥拝所は、沖ノ島を本殿とすれば、拝殿のような役割を果たしています。ここからは、誰もが沖ノ島を拝むことができます。また、中津宮や辺津宮、さらには古墳群も沖ノ島の価値を証明するために不可欠な関連遺産群と考えています。

拝殿のような役割を果たす沖津宮遥拝所

沖ノ島そのものについて、その価値が分からなければ意味がありません。そこで現在、立体画像（３Ｄ）で沖ノ島を感じてもらうための撮影や調査研究を実施し、平成 24 年度開館予定の（仮称）「郷土文化学習交流施設」（現アクシス玄海）内の「世界遺産ガイダンス」で上映する予定です。公開までは、もうしばらく時間がかかりますが、楽しみにしていてください。

また、今すぐ沖ノ島を知りたい人は、市ホームページ（http://www.city.munakata.lg.jp/）の「沖ノ島バーチャルミュージアム」で、宗像・沖ノ島と関連遺産群の詳細を見ることができます。

「宗像・沖ノ島関連遺産群」
東京で第２回国際シンポジウムを開催

●主催　「宗像・沖ノ島関連遺産群」世界遺産推進会議（福岡県・宗像市・福津市）
●日時　２月 11 日（金・祝）午後１時～同４時 15 分
●会場　日経ホール（東京都千代田区）
●定員　抽選で５５０人
●入場料　無料（要入場券）
●申込方法　１月 31 日（月）必着で、（１）住所（２）氏名（３）電話番号を記入して、県世界遺産登録推進室・国際シンポジウム事務局へハガキ（〒８１２・８５７７／住所不要）か、ファックス＝０９２（６４３）３１６３か、メール＝sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp のいずれかで申し込む
■ 問い合わせ先　同推進室　☎０９２（６４３）３１６２

世界遺産への道２６　≪ミュージカルで伝える宗像の歴史≫

2011 年 02 月 15 日

宗像ユリックスで昨年 11 月 21 日、市商工会青年部主催「友遊フェスタ」のイベントとして、市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」が上演されました。

このミュージカルは平成 21 年 10 月に初めて上演されましたが、寄せられた多くの再演希望の声に応える形で、「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」の事業として再演。当日は約１１００人の観客でにぎわいました。

「市民参加型ミュージカル」ということで、出演者のほとんどがオーディションで選ばれた一般の子どもたちです。毎週末のけいこや夏合宿で鍛え上げられた演技と歌声は、プロ顔負けの出来栄えでした。

物語は、主人公のトクゼンが本の中の世界に迷い込み、そこで出会った宗像族たちと一緒に宗像の地を守るというもの。宗像三女神や沖ノ島に生息するオオミズナギドリ（オガチ）などさまざまなキャラクターが登場し、涙あり笑いありのストーリーを歌とダンスで表現しました。

「このミュージカルを通じて、宗像の歴史に興味を持つことができた」という声も多く聞かれました。今回のミュージカル公演で、世界遺産登録に一段と関心を持つきっかけになったのではないでしょうか。

しかし、当日の会場アンケート結果で「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産暫定リストに記載されたことを知っている人は、約 67 パーセントでした。昨年度（62 パーセント）よりは増えていますが、地元での認知度はまだまだです。

宗像・沖ノ島世界遺産市民の会では、より広く深く世界遺産について考える機会を提供していこうと考えています。世界遺産登録推進活動には、市民のみなさんの理解と協力、盛り上がりが必要です。今後もこのようなイベントを通じて、一人でも多くの市民のみなさんと共に、宗像の歴史や世界遺産について考えていきたいと思っています。

ミュージカル「むなかた三女神記」の様子

世界遺産への道２７　≪大島の魅力を伝える展示コーナーを設置します≫

2011 年 03 月 15 日

福岡県内の島で最大の面積を誇る大島には、神秘に満ちた知られざる風光明美な場所がたくさんあります。世界遺産の構成資産候補である中津宮や、沖ノ島を遥拝するために江戸時代に建てられた沖津宮遥拝所などは沖ノ島の関連遺産として重要な遺産です。

このほかにも、島の北西部には、第二次世界大戦中に築かれた砲台跡と風車や牧場が両立した不思議な空間があります。

また、神崎灯台の断崖絶壁からは、玄界灘の波が作り出した独特の景観を見ることができます。ここは、実際にドラマの撮影に使われたこともあります。

標高２２４メートルの御嶽山（みたけさん）の山頂展望所からは、南に大分県との県境である英彦山、西に福岡市街越しに佐賀県との県境である脊振（せふり）山系、東に北九州から本州山口県、北西に長崎県の壱岐、年に何回かは対馬まで見ることができます。そして、ここから英彦山が見えれば、沖ノ島もはっきり見ることができます。

「大島の魅力を伝えていく」。これも、世界遺産登録活動の一つと考えています。市では、大島渡船ターミナルの２階に世界遺産ミニガイダンスとしてパネルを中心に展示コーナーを設置。大島の魅力を紹介する展示も併せて計画しています。

大島渡船ターミナルは大島の玄関口であり、島民にとっては生活の一部となっています。２階には展望所（休憩所）があり、外のデッキからは大島漁港や御嶽山、本土側を一望することができます。

展示コーナーは、４月１日（金）にオープンする予定です。ぜひ一度、足を運んでください。

各種展示コーナーを設置する大島渡船ターミナル